



# 育児・福祉・介護とハプティクス (ハプティクス研究委員会)

Haptics in Childcare, Welfare, and Nursing (Special Interest Group for Haptics)

土井 幸輝<sup>1)</sup>, 吉田 さちね<sup>2)</sup>, 安 琪<sup>3)</sup> ハプティクス研究委員会幹事団一同<sup>4)</sup>

Kouki Doi, Sachine Yoshida, Qi An, Haptics Comittee

1) 同志社女子大学 (〒 602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入, ko-doi@dwc.doshisha.ac.jp)

2) 東邦大学 (〒 143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16, sachine.yoshida@med.toho-u.ac.jp)

3) 東京大学 (〒 153-0041 東京都目黒区駒場 3-8-1, anqi@g.ecc.u-tokyo.ac.jp)

4) 嵯峨 智, 吉元 俊輔, 蜂須 拓, 佐瀬 一弥, 田辺 健

**概要:** インクルーシブ社会の実現に向け、様々な立場の人々に向けたサービスが求められている。本オーガナイズドセッションでは、育児・福祉・介護などにまつわる多様な人々の力触覚に着目し、幼児や障害者、理学療法士に対する触覚生理や身体機能理解、行動支援を専門として研究分野をリードする3名の研究者を招き、ハプティクス技術への期待や課題について議論する。

**キーワード:** 育児, 福祉, 介護, ハプティクス

## 1. 講演者

### 1.1 土井 幸輝 (同志社女子大学)

**題目:** 視覚障害者のための支援技術 視覚障害者の日常生活の充実のための支援技術は欠かすことができない。本発表では、発表者がこれまで行ってきた視覚障害者が常用する白杖や点字・触知図等の情報保障ツール、筆記具、触覚サイン等の日常生活を支える支援技術等に関する研究成果を紹介する。

**略歴** 早稲田大学工学部応用化学科卒業、早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了、東レ株式会社、早稲田大学理工学術院客員研究助手(専任扱い)、首都大学東京システムデザイン学部助教、(独) 国立特別支援教育総合研究所主任研究員を経て現在、同志社女子大学生生活科学部准教授。

### 1.2 吉田 さちね (東邦大学)

**題目:** 親子の触れ合いをセンシングする 子どもの健康な心身発達には親との触れ合いが重要とされるがその作用はまだよく分かっていない。特に乳児期の子育てでは、頻繁に親子の身体接触が起こる。本講演では、0歳児と親を対象に行った抱っここのセンシング研究を紹介し、親子の非言語コミュニケーションの実体について考察する。

**略歴** 2001年、筑波大学第二学群生物学類卒業。一般企業に就職後、2008年、同大大学院人間総合科学研究科修了。博士(神経科学)。臨床発達心理士。理化学研究所、東京大学、JST さきがけ研究者、東邦大学医学部

助教を経て、2020年10月より東邦大学医学部講師。学位取得後から現在までヒトやマウスを対象に親子の触れ合いの神経基盤を探る研究に従事している。

### 1.3 安 琪 (東京大学)

**題目:** 介護・リハビリテーション現場におけるハプティクスの応用について

我が国は超高齢者社会となり、介護やリハビリテーション(以下リハビリ)が重要となっている。介護やリハビリでは、介助者や理学療法士が患者の身体に触れ、様々な感覚刺激を与えることで患者の気持ちを落ち着かせたり、運動機能の改善を図る。本発表では、介護やリハビリ場面における「触れる」という行為とそれが患者に与える効果を検証した研究を紹介し、今後のハプティクスの応用可能性について議論したい。

**略歴** 2009年03月 東京大学工学部システム創成学科卒業。2010年4月~2011年4月 ワシントン大学にて学生インターン。2014年9月 東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻 博士課程修了、博士(工学)。2014年10月~2015年3月 日本学術振興会特別研究員(PD)。2015年4月~2020年3月 東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻にて助教(2015年04月~2017年03月は特任助教)。2020年4月~2022年5月 九州大学大学院システム情報科学研究院准教授。2022年5月~ 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻 准教授(現職)。